YAMAGA

近代の山鹿を築いた人たちシリーズ

003

江藤為治（えとうためじ）

米国移民の父（一八八三～一九五八）

明治三十五年（一九〇二）、十八歳で自由移民としてアメリカに渡り、農園で勤勉に就労した後独立し園芸農業で大成功。農業経営のかたわら、農産物の冷蔵貨車輸送を開始、地域のための電話会社の創設、産業組合の組織化などで活躍。また、同胞移民への親身の世話や、日本の農村青年の派米研修制度を確立するなど、「米国移民の父」とたたえられた。故郷鹿央町の小中学校の江藤奨学資金、熊本大学・熊本商大（当時）への設備資金の援助なども行い、後進の人材育成にも貢献。昭和三十二年（一九五七）、勲四等瑞宝章を受章。

ハワイへ そしてカリフォルニアの園芸農場で大成功

勤勉・先見の知恵で自らが大農場主となったばかりでなく、同胞移民への親身の世話や戦後日本の農村青年の派米研修制度を確立するなど、「アメリカ移民の父」とたたえられた大人物が鹿央町から出ました。その大人物が、江藤為治です。

江藤為治は、明治十六年（一八八三）今の鹿央町上千田にて、改平・るいの三男として生まれました。父は農業のかたわら米穀仲買人もしていました。農家としては平均以上の資産をもっていましたが、五人の男兄弟が成長して、各々父親と同程度の農家になる見込みはありませんでした。

為治が青年へと成長するころ、日本社会も資本主義として発達期にあり、日清戦争を経て、日本人の視野も世界へひらいてきました。農村の苛酷な生活はまた海外移民にはずみをつけていきました。

加州オビスポ郡の上級裁判所陪審員
就任当時の江藤夫妻

農園にて（右端が江藤為治）

ASAHI EVENING NEWS

1,000 Farmers May Go to U.S. Despite Mounting Opposition

By Masahiro Sasagawa

Japan Honors Tameji Eto, Area Farmer

LOS OSOS RESIDENT HONORED . . . Tameji Eto, a resid of Los Osos valley for the past 50 years, was recently hono in Japan in a ceremony which included the unveiling of this h statue. He was honored in his home community for being an o standing citizen.

アメリカ新聞に載った為治

明治三十五年（一九〇二）、十八才の江藤為治は自由移民としてハワイに渡航しました。そこで精糖会社の大農園の労務者となりましたが、二年後にはアメリカ大陸に渡り、カリフォルニア州サンルイスオビスポ郡内の小農村アロヨグランデにて、約一年間アメリカ人の農園で一生懸命まじめに働きました。

最後の帰国（左側が江藤夫妻）

米国移民の父 江藤 為治

ETO TAMEJI 1883～1958

明治三十八年（一九〇五）、江藤は自ら農業経営に着手すると同時に、折からの南太平洋鉄道の工夫供給を請け負いました。これは農業拡張の資金を得ると同時に、日本から移民した労働者に就職の機会を与えることにもなり、この堅実な仕事ぶりと誠実な人柄は、白人間にも信用を得ることとなり、花卉種子生産会社から七五〇エーカー（一エーカーは、約四四六平方メートル）の栽培契約の申し込みを受けるにいたりました。この仕事のために、またまた日本から移民して来ていた人々六〇名に職を確保することができました。花卉種子生産については、四十五年ついに独立した会社を経営するにいたりました。

大正元年（一九一二）、蛤取りに行った海岸から陸をながめて、土がよく肥えていて、霜も降らない広くて平坦な土地を発見し、得意の馬を使って開墾して、有名なピズモピー（マメ科）の栽培を始めました。よそでは霜が降る時期でもここだけは霜が降らない為に、成熟したピズモピーが収穫され、市場では高値をよびました。こうなると生産者は急増します。江藤は生産過剰と価格下落を予測し、大正五年（一九一六）ピズモピー耕作者組合を組織して、生産調整などによって生産者を保護すると同時に、冷蔵貨車輸送によってサンフランシスコ、ロスアンゼルスはもちろん東部市場まで販路を拡大しました。

江藤の事業が多種多様に拡大されるにつれて、業務監督・連絡のためには自動車による東奔西走をもってしても不十分で、電話の必要を痛感するにいたりました。電話架設をベル電話会社に申し込みましたが会社は応ぜず、江藤はついに大正六年（一九一七）自力でロスオソス相互電話会社を創設しました。

ちょっとコラム

●為治は18年しか熊本で育っていませんが、アメリカを訪れた日本人とはいつも熊本弁丸出しでしゃべっていたそうです。

《熊本弁コーナー》

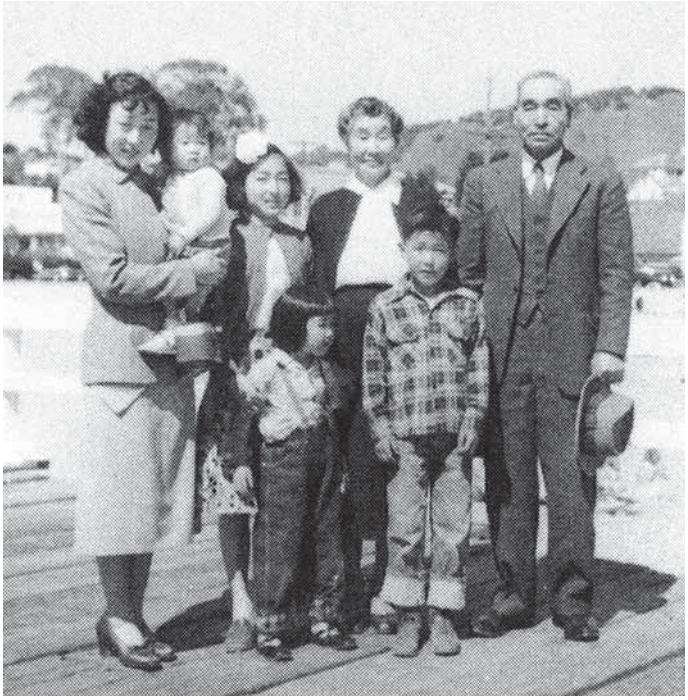
・ばってん　（だけど）
・しょんなか（しょうがない）
・ほんなこつ（本当だ）
・ひだるか　（ひもしい）
・ひっとでる（飛び出る）

ちょっとコラム

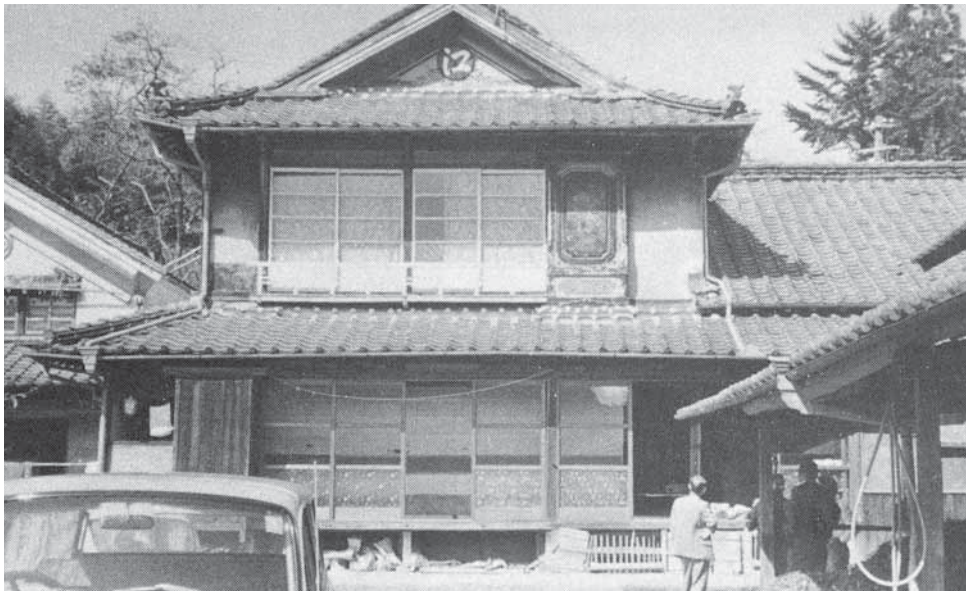
●大変な功績をたたえられた為治。アメリカ、サンルイスオビスポの町に「エトーストリート」と名づけられた道路があります。サンルイオビスポの町はカリフォルニア州ロサンジェルスとサンフランシスコの中間に位置しており、１年を通して温暖で雨が少ない地域です。

●帰国の際、為治は茶封筒に入れたレタスの種をポケットにこっそり忍ばせていました。そのころ日本にはレタスというものがありませんでした。もらった人が種を植えてレタスが育つと「これがレタスかぁ」と感動したそうです。
　レタスは地中海から西アジアにかけてが原産地です。

この電話会社には日本人はもちろん、アメリカ人農家も喜んで加盟し、株主総会は満場一致で江藤を社長に推しました。が、江藤は固辞し、アメリカ人を社長にして自らは副社長となりました。昭和元年（一九二六）、江藤は農業者を守るためにサンルイス野菜組合を組織し、パッキング（包装業）およびシッピング（輸送業）を開始し、一か年五〇〇貨車の輸送販売に達しました。その直後運送会社が運賃の二割引き上げを強行、江藤は厳しく抗議しましたが会社が応じないとみるや、江藤は郵便局長を説いて農産物の郵送を実現しました。郵送量は増加を続け、郵便局は昇格し、運送会社も陳謝して運賃をもとにもどしました。農家はもとより市民の感謝は一方ならず、江藤への信望はますます強まっていきました。


壮年の頃、家族で記念撮影（アメリカ）

大正十四年（一九二五）の世界大恐慌は、太平洋岸の農商業者を直撃しましたが、農商提携して難局をのりきろうと南カリフォルニア中央産業組合が組織され、農商とも最悪の事態を回避することができました。創立期の組合長江藤為治の献身と手腕がここでも開花しました。


鹿央町千田の旧江藤家本宅（改築前の生家）

米国移民の父 江藤 為治

ETO TAMEJI 1883～1958

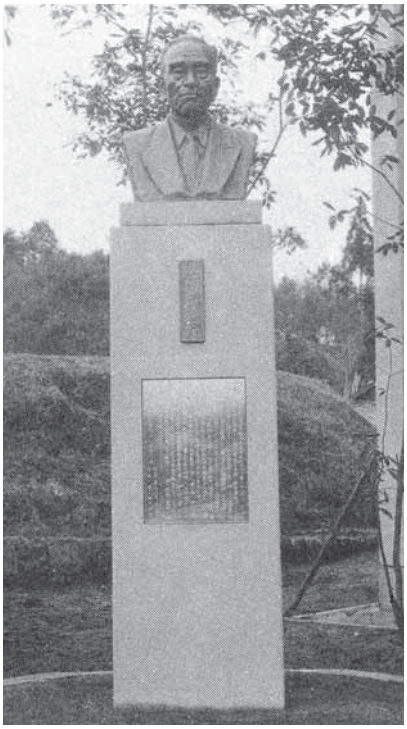
日米両国の社会へ献身

江藤為治に会った人は異口同音に太くて堅い手を話題にします。そして誠実で勤勉な飾り気のない江藤の人柄にひたすら感服するのです。

少年時代の江藤は決して秀才でもなく豪傑でもありませんでしたが、勤勉でまじめで正直で、年下のものにはいつも親切でした。江藤少年は宮原の杉本塾涵養斉に四年間漢学を学び、その後、下千田の隈部安次郎の夜学塾に通いました。このころに身に付けた儒教的精神が、その後の苦難の人生の中で、生き続けていました。為治の人生観を表したものが、次の四つです。

一、絶対正直であること、まじめが第一である。
一、信用は他から集まってくるものである。
一、もうけたら人のためになげる。
一、腰掛け移民はだめだ。

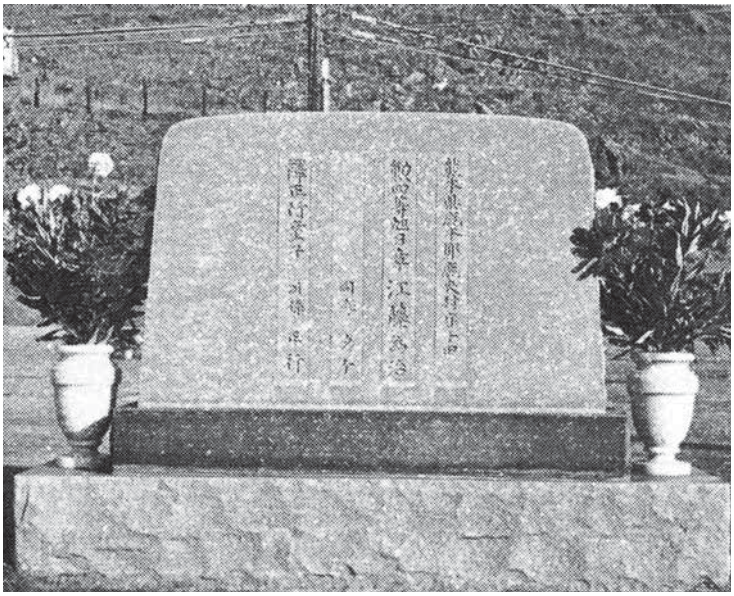
これらのことは、さらにアメリカ白人社会からの信用にもつながっていきました。次のことからも為治がアメリカから高い評価を得ていたことがわかります。



鹿央総合支所内にある為治像

郷里の胸像除幕式列席の江藤夫妻

一、サンルイスオビスポ市は同市街のひとつを「エトーストリート」と命名しました。
一、サンルイス郡の上級裁判所の十二名の陪審官に推薦されました。
一、『サンルイス郡歴史』は、ピズモピーの生産販売の第一人者、郡内初のアスパラガス生産者、同郡がカリフォルニア最大のトマト産出郡地なるにいる指導者、各種産業関係の長など業績を記し、「我がサンルイスオビスポの名声を天下に普及する上に、多大なる貢献をした人」と絶賛しました。


アメリカにある為治翁墓碑

江藤為治はまた、遠く太平洋をへだてた祖国日本の若者たちにも慈悲の手をさしのべました。鹿央町の小中学校へ江藤奨学金・熊本大学昇格時の設備資金・熊本商大への設備資金などの金銭的援助もさることながら、日本青年を毎年数百人アメリカに呼んで、農業実習をさせたうえに、そこで収入を得させるという「派米農業実習生」「短期農園労務者」の制度を実現させました。その制度によってアメリカ農業を実際に学んだ若者たちは、それぞれの地域で農業の中心人物として活躍しています。

昭和三十年（一九五五）、アメリカ合衆国に帰化し、昭和三十二年（一九五七）日本政府より勲四等瑞宝章を授与されました。さらに、没後の昭和三十四年（一九五九）、勲四等旭日章ならびに正五位を追贈されました。

山鹿市鹿央町千田江藤家邸内墓地

米国移民の父

江藤 為治

ETO TAMEJI 1883～1958

年表 History

一八八三年（明治一六年）▼鹿本郡鹿央村〔旧千田村〕大字千田江藤改平氏の三男として生まれる。

一八九七年（明治三〇年）▼鹿本郡田底村の杉本先生の宮原塾に四年間寄宿して学ぶ。

一九〇一年（明治三四年）▼近隣の高野伴五郎氏の令息から英語を習う。

一九〇二年（明治三五年）▼一八の時、高野伴五郎氏が江藤の熱意に感動して、渡米費用を貸し、渡米を果たす。

一九〇四年（明治三七年）▼約一ヵ年米人の農園に働く。

一九〇七年（明治四〇年）▼グリーンピースの栽培にアロヨグランデ日本人初代会長となる。

一九一二年（明治四五年）▼独立して花卉種子産業の経営を始める。

一九一六年（大正五年）▼実兄多久亀吉、実弟永野芳雄氏と共同して江藤兄弟種子会社を創立する。

一九二〇年（大正九年）▼私設のロスオソス相互電話会社を組織する。

一九二三年（大正一二年）▼第一回郷土訪問ミシン等を土産に持参する。

一九二五年（大正一四年）▼サンルイス野菜組合を組織し、輸送販売に成功する。

一九三〇年（昭和五年）▼戦後の経済界を乗り切るためにロスアンゼルスに農業大会を開く。

一九三四年（昭和九年）▼大山事件に勝訴し土地所有権を獲得する。

一九三九年（昭和一四年）▼サンルイスオピスポ郡史に収録される。

一九四〇年（昭和一五年）▼サンルイスオピスポ並にサンタバーバラ二郡のレタス出荷組合の調節委員長となる。

一九四一年（昭和一六年）▼連合軍との宣戦布告。日系人は海岸より遠い奥地の収容所に入れられる。

一九五〇年（昭和二五年）▼丸山学氏米国に留学し江藤氏宅に寄遇する。

一九五五年（昭和三〇年）▼大日本農業会総裁梨本宮より表彰。

一九五七年（昭和三二年）▼日本政府により勲四等瑞宝章を授与される。

一九五八年（昭和三三年）▼熊本県鹿本郡鹿央町の役場に胸像建立せらる。除幕式参列の為夫人同伴に帰郷す。桜井熊本県知事の来訪を受く。胃癌にて入院、十一月十七日永眠。（享年七十五才）

一九五九年（昭和三四年）▼勲四等旭日章並に正五位を追贈す。

一九六五年（昭和四〇年）▼翁の七周忌に際し、地元鹿本町長の主催にて、一大追悼会開かる。

一九七二年（昭和四七年）▼長男正治はライオンズクラブの一行と共に日本訪問、熊本及び郷里を訪問さる。

参考文献
『もっこす移民１００年史
＝アメリカに生きる熊本人の記録＝』吉松文雄著
『江藤為治翁伝』丸山　学・内田　守著

あとがき

山鹿市教育長　田中　宏

山鹿市では「人づくり」を大きな理念・目標として行政に取り組んでいます。

そのような中、教育委員会では「近代の山鹿を築いた人たち」と題して、ふるさと山鹿の今日を築いた偉人を、子どもからお年寄りまで広く市民の方々に紹介し、顕彰できる冊子を発行しようと考えました。特に未来を担う子どもたちに、ふるさと山鹿にはこんなに立派な先輩がいたと言うことを知ってもらい、郷土を誇りに思い、将来に夢と希望を持ってもらいたい。このような願いを込めて発行したものです。なお、編集に当たっては、各学校の先生方に献身的にご協力をいただき心から感謝致します。

近代の山鹿を築いた人たち　003
米国移民の父　江藤 為治

平成 20 年 3 月 発行

山鹿市教育委員会　教育部　文化課
〒861-0541　熊本県山鹿市鍋田 2085（博物館内）
TEL　0968 - 43 - 1691

編集委員
委員長／中山　哲朗（鹿本中）　班　長／小笠原里美（山内小）
委　員／島田　俊一（米野岳中）　上野　千春（千田小）
山下　政司（米野岳小）　原田　清隆（米田小）